

慈眼庵址宝篋印塔



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	じげんあんあとほうきょういんとう
所在地	久米南町峠
指定年月日	昭和30年3月18日
解説	宝篋印塔の立つ土地は、美作と備前の国境に接し、滋眼庵の跡地と称して、小さな薬師堂がある。塔の基礎に刻まれた銘により、南北朝時代初期の暦応5年(1342)に、善阿の発願になる造立が知られる。塔は、総高136cmの花崗岩製で、基礎・塔身・笠・相輪の各部とも完存している。基礎の四面に格狭間を入れて蓮華を肉彫し、塔身の四面には蓮華座を有する四方仏の種子を薬研彫している。笠の四隅はほぼ垂直に立ち、丁寧で装飾性に富んだ南北朝の特色を示している。
アクセス方法	
公開状況	
設備	
備考	